

グルマ－イ・チツドヴィラーサーナンダについての熟考

与える者になることを学ぶ

マギカナ・デュパン

1983 年にシッダ・ヨーガの道を紹介される前は、私はサーカス団員として 8 年以上過ごしていました。ジャグリング、パントマイム、手品などをしていました。サーカスでは、演技を完璧なものにするために、団員は規律と勇敢さをもって訓練されていました。セーヴァーをささげ始めた時、私は仲間のセーヴァイトたちの中にそれに似た性質があることに気づき、サーカスで学んだと同じような規律をもってセーヴァーをささげました。しかし間もなく、セーヴァーは筋肉からだけでなく、心から来ることを私は学びました。

SYDA ファウンデーションのスタッフメンバーとして務めた 1990 年から 2005 年までの 15 年間、私は自分がささげた食事を提供するセーヴァーについて、グルマ－イを見たり彼女の言葉を聞くことから、ほとんどを学びました。グルマ－イがキッチンへ来る時、彼女は完全に集中し、細部まで気配りをしました。グルマ－イは、インドのお菓子の生地をちょうどよい大きさと形になるように、丸めて形作るやり方を私たちに見せてくれました。鍋のふたを開けて匂いを嗅ぐことで、料理の味加減を見極める方法も実演しました。そして、経験の浅い料理人のために、大きな鍋でのスープのかき混ぜ方について正確に実演しました。キッチンでのグルマ－イを見ることは、与えることと奉仕することについて多くのことを私に教えました。真に奉仕する時には、行うことすべてに愛をもって全力を尽くすのだということを、私に気づかせてくれました。

私がキッチンで働いていたある夏の間、毎日食器洗い室にグルマ－イがやって来る時期がありました。彼女はエプロンとゴム手袋を身に着け、泡立つせっけん水の中に肘まで浸して、ゴシゴシと洗い始めるのでした。食器を洗う時の彼女の喜びは、部屋全体をきらめかせました。目の前の作業へのグルマ－イの集中力は、私が知っていたどんな高所の綱渡り師よりも優れ

ていました。食器洗いのセーヴァイトたちは完璧に機能するチームになり、私は行動の中のヨーガを目撃しているのだと分かりました。

私のプロとしての生活では、多くの異なる種類の観客のためにパフォーマンスをします。ある日はホワイトハウスでの正式な公演かもしれませんし、次の日は子どもの誕生日パーティーでの非公式なショーかもしれません。それは関係ありません。私はグルマリーを見ることで、どんな状況でも、完全な集中、注意、歓迎、そして愛をもって自分の才能をささげることを学びました。パフォーマンスの前には、舞台裏を掃除して準備をします。それから自分のプライベートな空間にプージャーをしつらえて、アーラティーをささげます。ステージに上がる直前には、賛歌「シヴァ・マーナサ・プージャー」から第4節と5節を声に出さずに歌います。私は少し立ち止まり、グルマリーの無私の与え方を思い出し、その記憶の中に浸ります。

それから、私はステージの中央に向かって歩いて行き、一人一人を目で歓迎します。エンターテイナーが全力を尽くす時、観客が「へえ！」となるあの瞬間——マインドが驚きに止まり、ある種の自由のようなものを体験する瞬間——を見て感じるすることができます。その魔法の瞬間に、パフォーマーと観客のどちらもが、神が住む純粋な愛の領域の中に入るのです。私はその瞬間を、キッチンでのグルマリーを見ていた時に何度も感じました。そして、自分のパフォーマンス中にもそれを体験します。

パフォーマンスが終わった後、私はグルマリーの愛をとっても強く感じ、人々の目の中に輝いている愛の鮮やかな光を見ることがよくあります。私にとって、それは与えることと受け取ることの循環の達成です。そのような時、奉仕の魔法の要素——心から来るものであり、すべての瞬間に与える者となること——を見せてくれたことに感謝し、グルマリーにこうべを垂れるのです。

